

上演台本

くちびるの会 第八弾

# 猛獣のくちづけ

作・演出 山本タカ

登場人物

大貫 (40)

小須田 (20)

中西 / 小西 (45)

峯田 (27)

北村 (32)

相川 (35)

／……前のセリフ尻にかぶせる。

一幕

【1】

この作品は、北関東にある、架空の町「百々路木町」が舞台である。舞台装置に関しては、演出に一任するが、場面転換が多いため、簡易で抽象性の高い舞台装置が望ましいだろう。舞台上には、小さな座卓に、カップ焼きそば（ペヤング）が置いてある。

観客が入りきり、開幕を告げるMゼロは特徴的なドラムのリズム。

暗転開けると、そこはアパートの一室。テレビのバラエティ番組がついていて、大家族特集などの番組を放送している。薄暗い六畳一間のアパートにペヤングを持って、佇む大貫。座卓に座ると、手を合わせる。

大貫 (小さく) いただきます。

大貫は、一口、ペヤングをすすする。テレビからは賑やかな声。テレビとペヤングを見比べ、次第に泣けてくる。すると、突如落ち着きなく部屋をウロウロとし始める。と、インターホンのなる音。玄関口から相川の声。

相川 (玄関口からの声) こんにちは！ お届け物です！

大貫、玄関の扉を開ける。すると、ヤマトのドライバーの制服を着た相川が、登場。

相川 宛名、お間違えないですか？

大貫 あ……はい。

相川 では、サインか印鑑をお願いします。

大貫、部屋にいったんボールペンをとりに戻ろうとするが、ハタと止

まる。

再び玄関に戻ると、相川の名札をじっと見つめる。

相川 あ、ペンあります。(胸ポケットから取り出そうと)

大貫 / 相川、さん。

相川 はい？

大貫 ごめんなさい。突然名前を呼んでしまって。……お間違え、ないです。

相川 え？ ……あ。(宛名のことか、と気づき)。じゃあ、サイン

大貫 / 僕がこの部屋に住み始めてからもう10年になります。その間あなたはずっと荷物を運んできてくれて、このやりとりも、ずっと同じ様に続けています。

相川 あ、一応、確認する決まりでして。

大貫 そろそろ何か、他のことをお話ししてはだめでしょうか？

間

相川 ……すみません、他の配達もあるんで。

大貫、悲しそうにペンを受け取り、サインする。相川は控えを切り取り。

相川 ありがとうございます。(荷物を渡そうとする)

大貫 (荷物を受け取らず) 二、三言でいいんです。

相川 本当に申し訳ないんですけど。

大貫 天気の話や、道端に咲いていた花の名前、人生の愚痴や泣き言をお話する間柄に。

相川 あの、私、恋人もいて。

大貫 そういう意味じゃなくて。お友達になってほしいだけなんです！

相川 (荷物を無理やり渡し) すいません、失礼します！

大貫 相川さん！

すぐさま、扉の閉まる音。

ひとりになった大貫、はたと気が付く。

大貫 もしかして、僕は今、とても気持ち悪いことをしてしまったのではないか。

大貫が愕然としていると、突如、ベルの音。

その音は、大貫の働く物流倉庫の作業開始のベルの音だ。

【2】

百々路木町にある、とある物流倉庫の午前中。  
大型の扇風機の回る音や、ベルトコンベアの動く音など、雑音が多い。  
作業員の制服を着た派遣作業員たち（大貫・小須田・中西・峯田）が、  
忙しなくプラスチックコンテナを運び回っている。  
非常に過酷な労働であることが登場人物達の表情から窺える。

作業の最中、大貫は腰へ電流が走った様な痛みを感じる。

大貫  
い！

同じラインで働いていた、ベテラン作業員の中西が声をかける。  
大貫の様子を見て峯田は、北村を呼びに退場。

中西 大ちゃん、大丈夫？  
大貫 だいじょぶす。だいじょぶす。（運ぼうとするも） い！  
中西 どこ？（ぎよっとし） え、腰！？

峯田と共に、この倉庫の社員である北村登場。

北村 どうしました？

中西は、作業に戻る。  
北村は、ジャンパーにワイシャツ・ネクタイ・スラックスといった格好で、他の作業員と格が違うのは一目瞭然である。

大貫 いや、大丈夫です！ ちょっとバテちゃって。  
峯田 でもさっき、「いー」って。  
大貫 /大丈夫です！ 大丈夫だから。  
北村 （峯田に） いいよ。作業戻りな。

峯田、軽く頭を下げ、作業に戻る。

北村 （大貫に） ジャンプ、できます？  
大貫 ……今ですか？

北村 前にああいうこともあったんで、事故とか怪我が起こる前に。  
大貫 あ、いやでも、業務に含まれないじゃないですか、ジャンプ。  
北村 (冷たく) 休んでてください。他の人に任せるんで。

北村が去ろうとする。

大貫 あ、あの！ やります！

北村が見守る中、大貫、腕をふり、ジャンプしようとする。  
が、ジャンプをする直前に、昼休憩のベルが鳴る。  
作業員一同、一斉に作業を止めて、休憩に入る。

大貫 休憩、いただきます。

腰をかばいながら、逃げるように休憩室に向かう大貫。

【3】

とたんに、そこは倉庫内の休憩室。簡素で椅子しか置いていない様な詰所である。

休憩室内には、大貫、中西、小須田がいる。大貫は、腰をかばう様な姿勢、小須田はスマホを横持ちして黙々とゲームをしている。

中西は、自分のしているコルセットを巻き直している。

中西 あんまり放つとかない方がいいよ。

大貫 やっぱり、コルセットっていいですか？

中西 ああ、でも一回頼ると、筋肉弱っちゃうから。

大貫 ああ。

その時、峯田が休憩所の扉を開けて登場。

手には、タバコの箱を持っている

峯田 れーす。

中西 (突っかかる様におま、どこで吸ってんの？ 派遣用の喫煙所、いねーだろ。

峯田 ああ、北村さんと一緒に。

中西 は！？

峯田 あげてるんす。奥さんにはタバコやめたテイらしいんで。

中西 媚び売りやがって。

峯田 いやいや。

中西 大ちゃんのこともチクリやがってよお。

峯田 いや、だってめっちゃバそうだったじゃないすか。見かけたら報告する様になって張り紙も。

大貫 ああ、ごめんね。峯田君、ありがとう。でもね。腰に関してはこれ（内緒）でお願いできたら嬉しかったな。

中西 つっちーさんのことがあつから。

峯田 つっちー？

大貫 前に、土田さんって人がいてね。あれ、小須田知ってるよね？

小須田 （うなづく）

大貫 で、結構なおじいちゃん、腰を言わしてたのを騙し騙しやってたんだけど。その人が。

中西 作業中に、うずくまっちゃって。それが結構な感じで。タンカやら救急車やら大騒ぎになっちゃって。それでもう、北村の野郎が（クビ）

大貫 前の人は、いろいろ大目に見てくれる人だったんだけどね。

中西 つるんでも、切られんのは一瞬だぞ。

峯田 ええ？

中西 部品だ部品。俺らなんか。不良品になったら、即交換だよ。

大貫 だから、腰のことだけは、ね。

中西 面白い人だったのになあ。つっちーさん。

大貫 （思い出し）エビフライ。

中西 あつた。あれ最高だったな。

大貫 いや、土田さん、歯がほとんどなくてね。

中西 あれ競馬で勝って、なんか奮発したんだよな。でっけえエビフライ弁当買ってきたんだけど。「歯あねえからエビフライ食べれねえわ」って。

大貫 で、僕が代わりに。

中西 「若けえの！ 食ってくれ！」って。大ちゃんが食べるのに合わせてつっちーさんももぐもぐして、「食った気がするわあ」って。

大貫と中西が盛り上がるのを、峯田は少し冷めた目線で見ている。

ゲームを行う小須田の貧乏ゆすりが観客に気づかれないうちに大きくなっている。

大貫 あ、ごめん、ごめん。昔の話。

中西、中島みゆき『時代』の歌い出しのワンフレーズに似た歌を、音

程の外れた歌らしき口調で口ずさむ。

小須田 しょうもな。

中西 あ？

小須田、席を立つ。

中西 おい、今、なんつった！？

小須田は無視して休憩室を出ていく。

中西 (舌打ち) ゲームばかりぼちぼちぼちぼち。

大貫 ……ああ！ あれゲーム？ メールかと。

峯田 メールで横持ちしないす。あと今ラインです。

大貫 ああ(9のナインのイントネーションで) ラインね。や、ずいぶん仲良い友達いるんだなって。

中西 (やや声が大きくなり) いるわけねーだろ、あんなやつに。

峯田 (声を落とし) あ、この前帰りのバス一緒になって。ちよっと話したんすよ。

大貫 /話したの？

峯田 で、なんか高校の時の話したら、なんか、すごい変な反応して。

中西 いじめられてたんじゃねえの。

峯田 じゃないかな……。予想ですけど。

中西 仲良くなってるじゃん。

峯田 いや、そういう感じじゃ。

大貫 (大きめの独り言) いいなあ。

峯田と中西が注目する間。

中西 (スマホを見て) 遠い…給料日。

大貫 何ちゃんでしたっけ。

中西 明美。

大貫 長いよね。

中西 かれこれ5年かあ。

峯田 え？

大貫 玄人。お店の子。

峯田 ああ。

中西 ああって何だよ。





峯田 /え、結局今どうしてるんすか？  
中西 そりゃ大ちゃんひとりで。  
峯田 あ、じゃなくて。そのつつちー？ さん。

大貫と中西、目を合わせる。

中西 さあ。

峯田 さあって。

中西 俺らには何にも知らされねーんだよ。

峯田 いや、連絡とか取ってないんすか？

大貫 ……言われてみれば、知らないね。つつちーさんの連絡先。

峯田 え？

中西 いや、突然のことだったから。

大貫 突然、いなくなっちゃったから。

間

中西 ま！

中西、中島みゆき『時代』の歌い出しのワンフレーズに似た歌を、  
程の外れた歌らしき口調で口ずさむ。

と、中西が歌っている最中に休憩室のドアを開けて小須田登場。

中西の歌を聞き、露骨に嫌そうな表情をする小須田。

中西 お前、俺の歌になんか文句でもあんのか！？

休憩終了のベルが鳴る。

各々準備を始める。準備が終わった者から退場。

小須田は、手をグーパーしながら手の感触を確かめ、準備をしている。

大貫は、小須田の様子を伺い、話しかける。

大貫 嫌いなもの？

小須田 え？

大貫 中島みゆき。

小須田 はい。いや…嫌いじゃないです。

大貫 え？

小須田 ずっと聞いてたんで。昔。

大貫 え、俺も聞いてたよ！ あ、「ファイト！」とか！いいよね。

小須田 / 「ファイト！」聞きたくなる時って、その時点で既に精神的な限界きてる気がしません？

大貫 ……精神的な限界か。はは、確かに。そうかもしれないね。

と、大貫が話し終わる頃には、既に小須田はいない。

【4】

終業のベルがなる。

大貫 17時に終業のベルがなると、倉庫から最寄り駅まで走っているバスに乗る。

気がつけば、そこはバス停らしく、バスが停車する。  
バスに揺られる大貫。

大貫 (外に流れる風景を見ながら) 北関東に位置する、ここ百々路木町は、隣町と、渡良瀬川を挟んで分断されている。渡良瀬川はもともと、運河の役割を果たしていて、この町もかつては卸売市場として栄えていたらしいが、流通の発展した現在は、市場としての役割は消え、名残として多くの倉庫が並ぶ街となった。(バスが着く)

大貫が舞台上を歩くと、駅前の雑踏音も聞こえる。

大貫 駅前の薬局でその日見つけた安いカップ焼きそばを買う。見渡せば、一体こんな町のどこに潜んでいたんだというぐらい、幸せそうにベビーガーを引く夫婦、習い事に向かう小学生。カップル……先週、腰に違和感を感じてから、そんな人ばかり目につくようになった。駅から、徒歩35分。そして辿りついた、この築45年のアパートが僕の住処だ。

大貫の家ができる。

大貫 ……独り言が、増えたなあ。

目の前には、冒頭のシーンの様に出来上がったカップ焼きそばが置いてある。いつの間にか、雨が降り始めている。

大貫 ……雨。

ため息をついた大貫が。カップ焼きそばをすすする。  
再び滲む涙。鼻水をすすする音。  
どこからか、ドラムの音が聞こえてくる。

大貫 なんだろう、この音。

次第に大きくなってくるドラム音。

大貫 ……「ファイト！」だ！ 中島みゆきの「ファイト！」の前奏だ！ 精神の限界が来ているんだ。どうしよう、どうしよう。

さらに音は大きく聞こえる。

大貫、ひざまづいて祈る。

大貫 僕を孤独から…いや、僕「を」はおこがましい。僕のように、孤独に怯えている人たち「を」、救ってください！

祈る先を探し、ペヤングが見つかる。

大貫 (祈りをペヤングに) ペヤング。

ドラムの音が鳴り止む。と、突如激しい雷鳴。それと呼応する様にひとりだけで点くテレビ。ローカルテレビの生中継だ。

男性アナ(声) では、渡良瀬川マラソンのゴール地点に中継を繋いでみましょう。

女性アナ(声) はい！今日は突然の雨に見舞われましたが、みなさん晴々とした表情でゴールされて…

と、中継先から、「な!?!」「ワニだ、ワニだぞ!」「逃げろ!」などと、混乱状態の音が聞こえる。

女性アナ すいません、一旦、スタジオにお返します!

男性アナ(声) えー、一度、CMを挟みまして、この後は、お天気のニュースです。

大貫 ……ワニ。

大貫、祈った自分の手と、ペヤング、窓からの空、そしてテレビを順番に見る。

CM

「辛い、四十肩！ 腰痛！ それ、あなたのチャクラが原因かも！ 西田チャクラエネルギー研究センターに来れば、全てのチャクラがガン開き！ 五臓六腑が若返る！」

荒れる空模様の音とテレビの音声混じる中、暗転。

【5】

午前中。

倉庫内。相変わらず忙しなく動く作業員達。その中に中西はいない。北村がやってきて、作業中の大貫を呼び止める。

北村 大貫さん。ちょっと、来て。（大貫の持っている荷物）その他の人に任せて。  
大貫 はい。

大貫、荷物を起き、北村の元に。二人の背後では、作業が続く。

北村 何か知ってます？

大貫 はい？

北村 中西さん。今日無断欠勤。

大貫 え！？（倉庫内を見回す）

北村、通りすがりの峯田と目が合い、舌打ち。

峯田 すいません。

北村 （大貫に）え、こーいうこと、よくある人ですか？

大貫 いや、今までそんなこと全く。

峯田 なんか、連絡とか来てないですか。

大貫 いや。（今気づく）連絡先、知らなくて。

北村 （ため息）もういい仕事戻って。

峯田 （北村に）中西さんと、仲良いんで、てっきり。

大貫 仲良い？

峯田 はい？

大貫 そう、見えてた？  
北村 もういいっす（行こうとし）  
大貫 あの、中西さんは。  
北村 派遣元にクレーム入れます。

大貫、青くなり、北村を止める。

大貫 ちよちよちよちよつ、ちよつと待ってください！  
北村 早く仕事  
大貫 /住所、教えていただけたら、帰りに寄ってみます！

と、気がつけば、そこは中西のアパートだ。

【6】

中西の暮らすアパートは、決して綺麗とは言えない。  
（築年数は古く、ゴミ屋敷とまではいかながいが、着古した服などが  
散乱している様な、一人暮らしの六畳一間を想定する。）  
床にはスマホが放り出されている。  
中西は、時折、アトピーの様に腕を掻きながら話す。

中西 ごめんねえ、そこらへん、適当に。  
大貫 体調悪いなら、せめてそう言わないと。  
中西 ごめんごめん。  
大貫 いや、僕に謝っても。

大貫は、床に放られたスマートフォンを拾う。

大貫 今からでも、多分間に合いますよ。

中西は、スマートフォンを受け取るものの、床に放り投げる。

大貫 中さん。  
中西 ……どうでもいいや。  
大貫 ……何か、あったんすか？  
中西 ……昨日、明美呼ぼうと思って。  
大貫 はい。え、でも給料日。

中西 昨日、電話きてさ。元嫁から。再婚して、相手の男と娘で養子縁組むって。

大貫 だからもう養育費いらねーとか言うからさ、浮いた金で明美呼ぼうとして。

中西 ちよちよちよちよ中さん……え、結婚してたの？

中西 うん。

大貫 うんて。初耳だよ。娘？ いるの？

中西 いるよ。じゃなきゃあんなキツイ仕事、やってらんねーよ。

大貫 /そうだけど。

中西 メシ代削って、体壊して。

大貫 /そんなこと一言も。

中西 だから、明美呼ぼうと。

大貫 明美さんの話いいよ。

中西 いや、よくないよ。

大貫 いいって。

中西 よくないよ。

大貫 いいから。

中西 よくねえよ!!

大貫 (中西の迫力に押されて) ……そうすね。よくないすね。

中西 ごめんね。急に怒鳴って。

大貫 いえ……。

中西は、顎関節症の様に、顎の骨をガクガクと鳴らす。時折、身震いしたり、生あくびの様な仕草を繰り返す。

中西 (笑いをこらえる様に) 笑っちゃまうぜ？  
大貫 え？

中西 店に電話したらよ。「明美さん、しばらく今日お休みで」とか言うわけよ。で、「いやいや、HPに出勤で、書いてありますけど」つついたら「いえ、あの突然体調を崩されて」とかもごもごして。で、「じゃあ、次出勤するのはいつですか？」つついたら、「当分はお休みされると」とか言うの。

大貫 それは、心配になるね。

中西 (笑う)

大貫 え？

中西 鈍いなあ大ちゃん。出禁だよ。

大貫 あ。

中西 明美のラインも全然既読つかねえ。

大貫 ラインやってたんだ。

中西 マジで笑えるよなあ。……なあ!?

大貫 うん。(頑張って、笑う様に努める)

中西も一緒に笑う。

笑いながら、中西の顎はガクガクとなり、身震いと生あくびが挟まる。  
その異様さに言葉を失う大貫。

中西 何笑ってんだよ！(大貫を見つめながら)なあ、店やめたら結婚しようって言

ってたじゃねえかよ。

大貫 (自分に言われてる意味がわからず) え？ え？

中西 (大貫につかみかかる様に) 娘にも会うなってどういうことだよ！ 金ならい

くらでも稼いで払うつつうんだよ！

大貫 ちよっと、いったん落ち着いて！

と、大貫、中西を抱きしめながら、落ち着かせる中で、中西の背中が  
ゴツゴツしてきているのを感じる。

中西 水。

大貫 はい？

中西 /喉、渴いた。水。

大貫 はい。

大貫、玄関のある方の出ハケ口に退場。

中西は寒そうに、転がったままのシーツを纏う。

大貫 コップ、適当でいいですか！？

蛇口をひねり、水を入れる音。

すると、どこからか小さく、特徴的なドラムのリズムが聞こえてくる。

中西 なんだあ、この音。

その音は次第に大きくなる。

中西は、自室の音楽プレーヤー(MDコンポ)を探し始める。

大貫は、適当なコップ(ワンカップ?)に水を入れてくる。

大貫 ちよちよ、どうしたんですか？

中西 急に。あれ、コンポどこだ？ コンポ！



大貫 コンポ？

中西 音！ 鳴ってるだろ、これ！ ほら！ ズンズンタズンズ。ズンズンタズンズ  
って。

大貫 /（気付き）ダメだ中さん、限界きてる、これ以上ファイトしちゃだめだ！

中西 （大貫の手のコップに気付き）水。

大貫からコップを奪うようにして、水を飲む中西。

大貫 （背中をさすりながら）大丈夫、僕がいるから。大丈夫。

水を飲み干すと、音が鳴り止む。

そして、中西は急激に落ち着く。

中西 そうか……そういうことか。

大貫 ちよっと、どうしたの。

と、大貫が中西に触れると、中西の体温は下がっている。

大貫 なんか、冷たいっすよ。中さん？

中西のくるまった毛布から手が出てくるが、その手は完全にワニ。

毛布の中から、ワニの唸り声、観客からは見えないが、中西は大きく  
口をあけている。

大貫 うわあああああ！

思わず、中西のアパートから逃げ出す大貫。

同時に、休憩を告げるベルの音。

とたんにそこは、倉庫の休憩室に。

【7】

翌日。

休憩室の中には、小須田、大貫、峯田。

小須田は、手袋をしたままゲームを行なっている。（スマホのタッチが  
可能なスマホ手袋）

大貫は、中西のことを話すべきかどうか迷っており、わかり易くソワ

ソワしている。  
会話の少ない休憩室。

峯田 ……それ、スマホ手袋？

小須田 ああ、うん。

峯田 やりにくくない？

小須田 いや、そんなに。

峯田 ふーん。あ、中西さん。

大貫 ん！？

峯田 昨日、お見舞い。

大貫 ああ、うん！

峯田 どうでした？

大貫 あー…：…いや、実は、留守で。

峯田 ええ？

大貫 会えなくてさ。

峯田 ああ…：…嫌になっちゃったのかもですね。急に。

大貫 え！？

峯田 なんすか。

大貫 あいや、なんで、そう思うの？

峯田 いや、生産性ないじゃないですか。この仕事。ものをあっちからこっちに移動させるだけ。場所によってはロボットがやっている様な仕事ですよ。だから、急に嫌に。

大貫 /そうじゃないと思うけどな。

峯田 じゃ、何すか？

大貫 ……それは。(何と言っていいかわからず、うなだれる)  
峯田 (ため息) 吸ってきます。

峯田、再び休憩室から出て行く。

小須田はゲームに夢中。

大貫 前にさ、「ファイト！」の話ししてたじゃん？

小須田 (ゲームがいいところ) ちょちょちょよと。今。

小須田のゲームが一区切りつくまでの間。

大貫は焦ったように、その時間を待っている。

小須田、ゲームが一区切りつき。

小須田 (大貫が話ししかけてきたことを思い出し) あ。  
大貫 僕たち、友達になる！ 中西さん、多分ワニになっちゃった！

間

小須田 ……意味が。

大貫 だよ。そうだよ。

小須田 あと情報量も。

大貫 多かったよね、ごめんね。

小須田 え、中西さん。

大貫 昨日、会ったんだ、お見舞いに行つて。

小須田 ……え、さっき。

大貫 うん嘘ついた。でね。中西さん、多分、ワニになっちゃった。

小須田 ……は？

大貫 見たんだよ、ワニになるその瞬間を。なんか情緒がおかしくなって、皮膚もゴツゴツして、体も冷たくなって、で、水を飲んだら、急に落ち着いて。で、最後には僕に噛みつきようとした。

小須田 ……いやいや。

大貫 わかる、わかるよ。その反応！ でもね、中西さん、最後にあの音が聞こえるつて言ったんだよ？ ズンズンタズンズン、ズンズンタズンズンね？

小須田 ねって。

大貫 「フアイト！」の前奏だよ！ 中西さん、あまりの孤独から精神的な限界がきちゃったんだよ！

小須田は自分の手を見つめている。

大貫 だから僕たち友達に。

小須田 その意味が全然。

大貫 /今、僕たちに必要なのは、孤独を埋める友達なんだよ！

休憩室に走り込んでくる峯田。

峯田 やばいっす！ ワニが出ました！

一同、驚き、倉庫に向かう。

【8】

途端にそこは、倉庫内に。  
倉庫内は騒然としている。  
北村は、周囲にあるものを使い、ワニが進入しないうためのバリケード  
を作ろうとしている。

北村 どっから入ってきたんだよ！

峯田 従業員通路から！

北村 はぁ！？（周囲の人間）警察！ 警察！

峯田 さっき、事務の人が呼びました！

大貫、小須田も到着する。

すると、物陰から、ワニの唸り声「グルルル、バコン！」

一同、慄いていると、ゆっくりとワニが姿を現す。

（OFF・OFFシアターは床面の芝居が見にくいため、中西役の俳優が  
緑色の服を着て、ワニの模型を持ってくるでも良い。）

ワニには腰の部分にコルセットが巻いてある。

特徴的な汚らしさをもったそのコルセットは中西のものだ。

大貫 中さん。

小須田 え？

大貫 中さんだよね！？

と、大貫、思わず現れたワニに近寄る。

北村 離れてろって！

ワニ（中西） 大ちゃん。俺、今、どうなってる？

大貫 ワニになってます。

ワニ ……ワニ？

大貫 はい。コルセットつけたまんま、ワニになってます！

ワニ あぁ…どうりで。…腰が楽だと思った。

北村 今、どうなってる？

峯田 わかんないす。

大貫 ……すいません。

ワニ え。何が？

大貫 全体的なすいませんです。

ワニ ……あぁ〜大丈夫よ。今、俺、すごい楽だから。

大貫 それはコルセットをしているから。  
ワニ ああ、腰じゃなくて。ね。なんか……救われたって、感じ？  
大貫 救われた？（モノローグ）僕がペヤングに祈ったせいか？  
ワニ 色々、ありがとうね。大ちゃん。

大貫 中さん！ 救われたって（どういうことですか？ と言おうとして）

すると、パトカーが近づき、止まる音。パトカーのドアが次々と開く。

小須田 （警官隊が銃を構えているのに気づき）大貫さん！

と、小須田、大貫を中西ワニから引き離す。

途端に、中西に銃弾が打ち込まれる。

音楽。

大貫 駆けつけた警官隊は、中西さんの体に、何発も、何発も銃弾を打ち込みました。

続け様に発砲する音。

床に転がる中西ワニ。

大貫 僕は、動かなくなった、中西さん、もとい中西ワニを元々は人間だったのだと何度も警察に説明しようとしたが、全く取り合われることはなく、北村さんだけが、事情聴取として、連れていかれたのでした。

倉庫内の環境音。

まるで何事もなかったかの様に作業が進む倉庫。

大貫・小須田・峯田も作業をしている。

小須田 大貫さん。

大貫 ん？

小須田 友達、なります？

大貫 いいの？ 俺で。

小須田 この倉庫で、大貫さんだけは、ゼロなんで。

大貫 ゼロ？

小須田 好きでも嫌いでもないし、上でも下でもないなって。だから、消去法で。友達、なりましょ。

大貫 うん。なろう！ 友達。

小須田 はい。

小須田と大貫、作業に戻ろうとする。

大貫 あ、小須田くん！ 今日、一緒に帰ろ！

小須田 ……………はい。

終業のベルがなる。

【9】

長閑な田んぼの音と、ささやかな交通音。

最寄りのバス停前。

大貫と小須田は帰りの服に着替えた状態で、スマホを持ちながら登場。

大貫 へえ、これでもう、ラインできるの？

小須田 はい。

大貫 ふうん。

間

大貫 このバス、本数少ないよね。

小須田 そうっすね。

大貫 いつも、待ってる間暇すぎて。小須田くんはどうしてる？

小須田 ゲームっすね。主に。

大貫 ああ、ゲームね。

間

大貫 楽しいよね。ゲーム。

小須田 いや、別に。作業ゲーなんで。

大貫 さぎょうげー？

小須田 作業している様なゲームっっていう。

大貫 ああ。おいおい！ ゲームでも作業してんのかよ！（突っ込む）

小須田 ああ、はは。はい。

間

大貫 好きな食べ物とか。  
小須田 あの、そんな、無理に、話さなくてもいいですよ。  
大貫 別に無理には……。  
小須田 遅。(バス停の時刻を見て、時計を見る)

間

小須田、スマホを取り出して、ゲームを始める。

大貫 マジカルバナナ！

小須田 は！？

大貫 バナナと言ったら、美味しい！ 美味しいと言ったら！？

小須田 はい？

大貫 いや、マジカルバナナ。知らない？

小須田 知らないす。

大貫 ゲーム！ テレビ番組の！ マジカル頭脳パワーって、昔坂東英二が司会やってて、所さんが出てた……。

小須田 知らない知らない。え？ 怖。取り憑かれたのかと思った。

大貫 いや……仲良くなろうと思って。

小須田 ああ。

大貫 峯田君の方が仲良いのかと思ってたよ。

小須田 ……あの人、僕らのこと見下してますよ。

大貫 そうかな？

間

小須田 あ。

大貫 何？

小須田 じゃあ、せーので、お互いの秘密を言い合いましょ。

大貫 おおおお！ いいね！ そういうのそういうの！

小須田 はい。

大貫 友達にしか言えない系のやつね！

小須田 いいですか？

大貫 えーちよつと、待って！（考える）よし、えー！ よし。えー。

小須田 じゃあ、いきますよー。

大貫 ちよつと、待って！ 心の準備が。

小須田 せーの！

大貫 (同時に) コンニャクでお尻をペチンペチンした夜があります。

小須田 (同時に) ワニになりかけてます。  
大貫 え?

小須田 はい、僕、ワニに、コンニャク?

大貫 今それいいから、ちよつとどういう。

小須田 コンニャク気になって。

大貫 どうでもいいよコンニャクは!

小須田 でしょうけど。え? どういう?

大貫 だからネットで、蒟蒻でおしりを叩くと、なんか夏場ひやっとして気持ちいい  
っていう記事を見かけて、コンビニで買って。家で全裸になって一人で試した  
っていう、誰でもやることだよ。ワニなってんの?

小須田 ああ、もう! これ。

小須田、身につけているスマホ手袋をずらし、大貫に手首を少し見せ  
る。

大貫 (絶句の間)……。

小須田 そうですよね、多分、これ。

大貫 ……。

小須田 変だと思ったんすよ。緑色なんだもん。

大貫 ……ごめん。

小須田 なんで、謝るんすか。(やってきたバスに気をとられる。)

大貫 だって、僕が。

小須田 来ましたよ。

バスがやってくる。会話は途切れ、バスに乗る二人。

【10】

バス内。座席に並んで座る二人。

小須田 なんで孤独だと思ったんですか? 中西さんがワニになった理由。

大貫 それは………中西さん、ワニになる直前に、明美さんのいる店に出禁食らっ  
て。……あと、いろいろ家族と縁切られる的なことあったみたいで、それで。

小須田 ああ、そっかあ。

大貫 (モノローグ) 小須田くんとは、それから毎日帰るようになった。倉庫には、  
無断欠勤者が増え始め、その度に新たな人員が補充されたが、その人たちもい  
つの間にかいなくなっていた。……夜の渡良瀬川に、バスのヘッドライトに照



らされて光るワニの目が一つ、また一つと増えていき、僕らの出勤日も一日、また一日と減っていった。いつの間にか、街にワニのいる風景が僕らにとって当たり前なものとなっていた。

このモノローグの間に時間は経過している。  
別空間で、倉庫の社員用喫煙所の会話が行われる。  
以降、このシーンでは、2つのシーンが同居しながら進行することになる。

峯田は、話しながらタバコを北村に渡す。

峯田 来週から、「出勤の必要性なし」ってびっくりしましたわ。

北村 上が言うんだから。

峯田 あの、いつまでとか？

北村 知らねえよ。

峯田 生活が。

北村 / ヤマトも。欠勤、増えてるんだって。こっちは出荷したくても、運んでくれないんじゃない仕事になんねえから。

峯田 すね。……やっぱ痛いですか？

北村 最悪だよ。本社の印象。

北村がタバコを吸う、間。

峯田 匂いではれますよ。

北村 / うるせえな。専業主婦やらせてやってんだ。たばこぐらいでグチグチ言われてたまるか。

間

峯田 あの話、まだ、いきてますよね。

北村 ん？

峯田 社員登用の。

北村 おま、当たり前だろ。……良くないの？

峯田 え？

北村 親父さん。体壊してるって。

峯田 ああ、そうすね。いや、元気っす。一応。……あの、いつ話してくれるとかって？

北村 もう一本、いい？

北村はタバコを捨て、峯田から追加のタバコをもらう。

北村 お前は、信じてんの？ あの噂。

峯田 そりゃ。てか、みんな言ってますよ。

北村 バカじゃねえの。人がワニになるとか。

峯田 ……そうすね。

北村、タバコを吸うが、腕をかき、タバコを捨てて退場。

峯田しばし吸って、退場。

そしてバスの車内。

小須田は窓の外を見ている。

小須田 手、握ってもらってももらってもいいですか？

大貫 (心配そうに) 聞こえてない？ 中島みゆき。

小須田 大丈夫です。信じていいんですよ。僕の手が、これ以上悪くならないのは、僕らが友達になったからですよね。僕が、孤独じゃないからですよ。

大貫 そうだよ。そして、それは僕も。

小須田 これは、本当にただの報告なんですけど、昨日、夢を見ました。僕の全身がみるみるワニになっていくんですけど、僕の手を握ってくれる人がいて、その人に手を握られた先から、僕は人間に戻っていくんです。そしてその人は……女性なんです。

大貫 ……。

車内アナウンス (ピンポン) まもなく、百々路木街道前。百々路木街道前。お降りの方は、ブザーでお知らせ下さい。

何も言えない、大貫。

大貫 こっすー。来週さ、ラウンドワン行こ。ほら、ここからちょっと行った国道沿いにあるから。どうせ出勤する必要なくなったんだ。運動してストレス発散しようよ！ ボウリングとか！ (手袋に気付き) あ、ボウリングじゃなくても、ほら、ビリヤードとか、ローリースケートとか！

小須田 すいません。

大貫 むしろ、言ってくれてありがとうだよ。友達の間には秘密はナシさ！

大貫、小指を差し出すと、小須田も小指を絡める。

バスの扉の開く音。小須田は、退場。

大貫  
（モノローグ）そんなことをのたまう僕はと言えば、ずっとこつすーに打ち明けられていないことがある。このワニ化は、僕がペヤングに祈ったせいだ。孤獨な人たちを救ってくださいと。そして救われた姿がワニなのだ。そんなことをぐずぐず考えているうちに徒歩35分。家の前には、相川さんがいた。

気がつけば、そこは大貫の自宅前。  
そこには、制服姿の相川がいる。

【11】

相川と大貫、目が合う。

大貫 お疲れ様です。

相川は軽く頭を下げる。  
大貫は、劇冒頭の気まぐさから、そそくさと家に帰ろうとする。

相川 大貫さん！  
大貫 申し訳ございません！（スピーディーな土下座）先日は、突然の対面での友達申請などという、怖い、もとい、気色悪い、もとい、うす気味わるい行為に及んでしまいましたこと、深く反省をいたしました。金輪際、配達する人、配達される人という垣根を越えることなく。

相川 友達、なりましょう。  
大貫 え？  
相川 私たち、友達になりましょう！

大仰な音楽。  
見つめ合う相川と大貫。  
暗転。

【二幕】  
【12】

暗転開けると、川の流れる音。そしてワニの鳴き声も聞こえる。  
場所は、渡良瀬川の河川敷の道路である。

小須田が、スマホを見ながら、きよろきよろと辺りを見回している。  
小須田は、スマホと財布が入る程度の極めて軽装で動きやすい服。  
しばしすると、大貫の声。

大貫（声） ごめーん！

と現れた大貫は、登山でもするのかというアウトドアなスタイル。  
大きなリュックも背負っている。

大貫 待った？

小須田 （大荷物に困惑） いや、待ったことより。

大貫 お弁当作ってたら遅れちゃって。

小須田 飯食うところなんてラウンドワンにありますって。

大貫 いや、そうなんだけどね。

小須田 現地集合でよくないですか？

大貫 え？

小須田 いや、こんな河川敷で待ち合わせないでも。

大貫 あ、わかりにくかった？

小須田 いや、じゃなくて。

大貫 渡良瀬川の看板があるところって、ポピュラーじゃないか。

小須田 じゃなくて！ ラウンドワンで落ち合えばいいでしょって。

大貫 ああ、うん、その通りだ。

小須田 っていうか、荷物。

大貫 え？

小須田 多すぎませんか？ 何入ってんですか？

大貫 レジャーシートとか。

小須田 レジャーシート!?

大貫 ああ、あの、実は、会って欲しい人がいて。

小須田 ……はい？  
大貫 もうすぐ着くはずなんだけど……（見つけ）あ、こっち！

と、現れた相川は、釣りなどに使用するゴムのつなぎを履いており、さらに巨大なリュックに懐中電灯などを装備している。（サンバイザーの様なものもあってもいい。腰にカラビナについたスタンガン）

相川 ごめんなさい、遅れちゃって。  
大貫 時間厳守って言ったじゃん、  
相川 看板が見つからなくて。  
大貫 ああ、やっぱりポピュラーじゃないか。  
相川 ごめんね、ぬつきー。  
大貫 いや、俺も悪かったよ。アイちゃん。

小須田は相川を見つめている。

相川 （小須田に）あの、今日はよろしくお願いします。  
小須田 （軽く頭を下げる）（大貫に）ちょちょちよ、ちよつといいですか。

と言って、小須田は、大貫を連れて相川と距離を取る。

小須田 あの、聞きたいことが多すぎるんで、順番に聞いていきますね。  
大貫 ああ（紹介）アイちゃん。普段は、ヤマトのドライバーをしています……  
小須田 じゃなくて！ぬつきーさん、彼女、いたんですか？  
大貫 彼女？  
小須田 あの人！  
大貫 アイちゃん！？  
小須田 そうですよ。  
大貫 ああいや、違うんだ、こっすー。  
小須田 友達の間には秘密は無いって。  
大貫 だから、秘密にしたわけじゃなくて。  
小須田 見損ないましたよ！  
大貫 こっすー！アイちゃんも、友達だ。  
小須田 ずいぶん親しげでしたけど？  
大貫 それは。

大貫と小須田が揉めているのを見て、相川は荷物の中から茶封筒を2

つ出して、大貫と小須田に押し付けるように渡そうとする。

相川 ごめんない、先にこれ渡すべきですよね。  
大貫 アイちゃん、こういうの本当にいいから。

大貫は受け取らないが、なし崩し的に小須田は持ってしまう。

小須田 (大貫に) 何ですか？

相川 少ないですが、今日の日当。

小須田 日当？

大貫 友達なんだから。

相川 親しき仲にも礼儀ありだよ。

小須田 何の日当？ 怖い。何の日当！？

相川 (大貫に) え、話してないの？ (小須田に) ああ、ワニ探しの。

小須田 ワニ探し！？ え？ どういうことですか？

相川と小須田に詰め寄られる、大貫。

大貫 ああー。ちょっと待って。わかった。今から回想シーンで諸々説明する。

小須田 回想シーン？

大貫 申し訳ございません！ (スピーディーな土下座。)

音楽。

突如回想シーンが始まる。

大貫 先日は、突然の対面での友達申請などという、怖い、もとい、気色悪い、もと

い、うす気味わるい行為に及んでしまい……

相川 友達、なりましょう。

大貫 え？

相川 私たち、友達になりましょう！

大貫 ……この前のは、うす気味……

相川 悪かったです。

大貫 ですよ。でも、恋人がいるって。

相川 ワニになりました。

間。

相川 おととい。ドラムの音が聞こえるって言い出したと思ったら、みるみる……。

私もこんな状況では仕事を休むこともできないので、仕方なく家を開けたら、もう、いませんでした。一緒にTAKAHIROを探して欲しいんです。

大貫 (八ッ橋の音程で) タカヒロ？

相川 恋人の名前です。バンドマンだったので、イントネーションはTAKAHIRO(スズナリと同じ)でお願いします。

大貫 TAKAHIRO君を探すのと、友達と。

相川 私、友達いないんです。だから、こんなことを頼める人はあなたぐらい薄気味

悪い人じゃないと。

大貫 ……相川さん、一つ、教えて欲しいのですが。

相川 はい。

大貫 家を開けているうちって、そのタカヒロさんと。

相川 TAKAHIRO。

大貫 TAKAHIROさんと相川さんは一緒に暮らしていたんですか？

相川 はい。同棲して7年になります。

大貫 その、そのタカヒロさんは……

相川 TAKAHIRO。

大貫 近い人が亡くなったとか、相川さんが、別れを切り出したとか、そういうことは？

相川 いえ、全く。

大貫 ……じゃあ、ペヤングは？

相川 ペヤング？

大貫 (一人で) ペヤングは、関係ないのか!?

相川 あのだ! どうなんですか? 友達になるんですか、ならないんですか!?

大貫 でも、もう彼はワニになって

相川 ……もしかしたら、人に戻るかもしれないんです。

大貫・小須田 !

相川 TAKAHIROがゆっくりとワニになっていく日々の中で、少しだけ、人に戻った瞬間があるんです。

大貫 それは、何をしたら。

相川 大貫さん! 私、もうだいぶ、あなたの質問に答えました。どうするんです!?

大貫 友達、なりますか!?

相川 もし、友達になったら、その人に戻る方法を教えてくださいませんか?

大貫 友達の間、秘密はナシです。

小指を差し出す相川。大貫も小指を絡める。

回想用の照明が変わり、音楽も終わる。小指も解く。

大貫、相川、小須田を見る。

小須田 いやいや。いやいやいやいや。

大貫 だから、友達だけど、アイちゃんは僕のことす気味悪いと思ってるよね？

相川 (クイ) 思ってます。

小須田 そこじゃなくて。え？ 人に戻れる方法があるんですか？

大貫 (相川と目を合わせて、うなづく)

小須田 原因は、孤独じゃないんですか？

大貫 まだわからない。タカヒロ君の中に。

相川 (訂正) TAKAHIRO。

小須田 今、どっちでもいいでしょ！

相川 (何この人、信じられないといった表情)

大貫 アイちゃんに言えない孤独があったのかもしれないし。

小須田 教えてくださいよ。僕、ぬつきーさんのこと信じて今まで。

大貫 ……。(相川に) 友達限定の話、していい？

相川 私と小須田さんが友達になれるかどうか。

小須田 そんなこと言ってる場合じゃ。もう、いいですよ。(大貫に) 知ってるんですよ。教えて下さい。

大貫 それは……できないよ。

小須田 ……は？

大貫 アイちゃんと、約束したんだ。友達だけの話だって。

小須田 昨日今日友達になった人と、僕と、どっちが。

大貫 優秀なんてつけられないよ。

小須田 マジでそんなこと言っている場合じゃないんですよ！

小須田は、上着をはだけて見せる。

(上半身の皮膚がほぼワニ化している、が、それは観客に見えない。)

大貫・相川 ……!!!

小須田 手首だけだったのが、もうここまで来てるんです。時間がないんです。

大貫、相川を見る。

相川は首を振る。

小須田、わけがわからず、うなだれる。

大貫

……ごめん、約束は、守りたい。君の手のことを、倉庫の人々には黙っていた様に。僕が君のそれを見て、何の責任も感じてないと思う？



大貫、相川の手に握られたままの大貫の弁当を取る。

大貫 アイちゃんとは、一足飛びで友達にはなれないかもしれない。でも、僕らみたいに、最初は仕事の仲間から、じんわりと友達になれる。僕はそう信じてる。アイちゃん。

相川 知り合いからだったら。

大貫、自分の弁当を差し出す。

小須田、相川を見つめてから、大貫に差し出された弁当を取る。

大貫 ……よし。じゃあ、TAKAHIRO 君探しにレッツゴー！

音楽。

【13】

相川、大貫・小須田に双眼鏡を渡す。

三人は、各々双眼鏡を覗きながら、渡良瀬川沿いを歩いて行く。

大貫 僕たちは、アイちゃんから渡された双眼鏡を手に、川辺のワニ達を観察して歩いた。

小須田 (相川に) 何か特徴とかないんですか？

相川 TAKAHIRO は、赤いスウォッチの時計をつけています。

小須田 もし、時計が外れてたら？

相川 手の甲も見て下さい。TAKAHIRO とタトゥーが彫ってあります。

小須田 タトゥー。

相川 まち針に墨汁つけて自分で掘ったやつです。小さいので、見逃さない様に。

小須田 ワニ皮の手に、そんなの残ってますかね。

相川 そんな方が一の時に備えて、TAKAHIRO の好物を持ってきました。(プリンダルス取り出す)プリンダルスのサワークリーム&オニオン味です。(プリンダルスを振る)この音につられて来たら、それが TAKAHIRO です。

引き続き、搜索は続く。

相川は時折、プリンダルスを降る。

大貫 (双眼鏡を外し) 平日の昼間に歩く百々路木町は、驚くほど静かだった。ここ

に住む人々は皆、倉庫で働く人たちなのだろうか。一体どれだけが人間で、どれだけがワニになってしまったのだろうか。

相川 陸にいるワニは、動きも遅いので恐れるに足りません。問題は、水中に潜むワニです。水の音に反応して一撃でガブリです。気をつけて。

大貫 初めて知った。(相川の手に行っているものを見て) それは?

相川 スタンガン。護身用。(バチバチ)

ワニ達の鳴き声がする。

大貫 渡良瀬川を見わたすと、一部だけ川が別れて三角洲の様になった陸地に、まるで甲羅干しをする亀の様に、ワニが塊になって日向ぼっこをしていた。

小須田 (双眼鏡を覗き) あ! 赤い! …… ショックかあ。

相川 (双眼鏡を覗き) あれは、ガンダム35周年とコラボした時のモデルですね。シャア専用カラーです。

小須田 詳しいですね。

相川 TAKAHIROが、時計好きだったので。

小須田 へえ。ずいぶん好きだったんですね。TAKAHIROさんのこと。

相川 どうだろ。あいつ私がいないとダメな男だったから。

小須田 え?

相川 ドライバーの助手のバイトに入ってきたのが出会いのきっかけなんだけど、なんかほっとけない、危なっかしい子で。いるでしょ? そういう人。

大貫 内田裕也と樹木希林みたいな。

相川 あ、もう、まさにそれ。すぐドライバーの助手も辞めちゃって、じゃあうちに住むってことになって。出会った頃から、武道館目指してるって言ってたけど、バンドも組んでなかったし、楽器も持ってなくて、私がギター買ってあげたの。最近ようやくニルヴァーナの『smells like teen spirit』のイントロ弾ける様になつて。

大貫 へえーすごい。

小須田 (大貫に耳打ち) 初心者用の定番曲です。

相川 ……ワニになる原因、ぬつきーは孤独だって言うけど、私は、承認欲求だと思ふの。

小須田 承認欲求。

相川 誰かに必要とされていると感じられるかどうか。TAKAHIRO、どんなにデカイ夢を持っていても、私以外誰も認めてなかったから。

小須田 相川さんは、必要とされると感じるんですか?

相川 ……私がいなくなったら、誰がこの街に荷物を届けるの?

小須田 他の誰かが届けますよ。

大貫 こっすー！

小須田 この世のほとんどの人間が代わりの利く仕事してますよ。相川さんも、TAKAHIROさんに必要とされてたから、承認欲求とやらが満たされていたんじゃないんですか。

相川 ……（大貫に）やっぱりこの人と友達になれない。

大貫 （小須田に）なんで、わざわざそんなこと。

相川、腹立たしげに双眼鏡を覗く。

小須田 これ、日がくれるまで続ける気ですか？

大貫 疲れたら、休憩しよう。レジャーシートあるし。

相川、双眼鏡を覗きながら何かに気づく。

相川 ん？ あそこ。ほら。

大貫、双眼鏡を覗く。

大貫 ワニを捕獲してる人？

相川 何人かいる。ほら、あそこにも。

大貫 本当だ。

相川 どこかに連れて行ってるみたい。

小須田 疲れました。休憩。

相川 行くよ。

大貫 うん！

小須田 ああ、もう！

一同、移動すると、とたんに小学校の裏門に。

大貫 百々路木第六小学校。（人の気配が少ないので）もう冬休み？

小須田 まだ早いでしょ。

相川 このワニ化で休校になったのかも。

大貫 裏門かな。あ（読み上げる）「初めての方は、インターホンを鳴らしてください。」

小須田 「初めての方」？

大貫 （相川）鳴らす？

相川 ……いや、これ見て。

大貫 電子錠。  
相川 ヤマトのセンターにあるのと同じもの。  
大貫 うちの倉庫も同じメーカー。  
相川 こういうところの4ケタの暗証番号は相場が決まってる。

一同、目を見合わせる。大貫、電子錠を操作すると、解除される音。

小須田 開いちゃったよ。

相川 やっぱ「5963」。

大貫 セキュリティがザルだ。

小須田 (二人が進んでいくので) ちょっと、やばくないですか？

大貫 シ！！

三人、袖口に入っていく。

遠くからワニの鳴き声。

相川 (小声中) 鳴き声がする。

大貫 (小声中) プールの方だ。

相川 (小声中) 背を低く！ 見つからないように。

一同はプールの入り口に到着する。

小須田 (小声中) ほら、なんか有刺鉄線あるし、プールの入り口もチェーンで入れ

ない様に。……相川さん？ それ、何ですか？

相川 これは、「ボールの様なもの」だよ。正式名称知らない。

小須田 なんでそんなもの持ってきて。

大貫 備えあればなんとやらだね。

小須田 何に備えて。

相川 秘密裏に、扉をこじ開けなきゃいけない時が来るかもしれないでしょ。今み

たいに！ ふん！

チェーンを引きちぎり、プールの鉄扉が、開く音。

小須田 やばいって。マジで！

【14】

袖中から出てくると、そこは、小学校のプールサイドだ。  
プールの中から、無数のワニの鳴き声。

大貫 ……すごい数。

小須田 引き返しましょう。ワニの研究施設になったんですよ。ここ、多分。

相川 早く！ TAKAHIROを探して！

オロオロする大貫・小須田と対照的に、相川は双眼鏡を覗き、  
TAKAHIROを探している。

相川 違う、違う、あれも違う。ああ、どこまで探したかわかんなくなっちゃっ  
た！ TAKAHIROー！ TAKAHIROー！

と言って、相川はプリングルスの筒を振る。  
袖中から男性の激しい声。

声 お前ら！ 何してんだ！

三人に緊張感が走る。  
袖中らデッキブラシを構えながら出てきたのは、作業着の男、小西。  
（小西は、首にタオル巻くなど、ラフな雰囲気を出していても良い）  
小西は、中西の役の俳優が演じているため、顔がよく似ている。  
小西は殺気を帯びたまま、相川の服を見る。

小西 バイトの人？

相川 ……はい。

小西 （殺気を解き）なんだあ。じゃ受付に一声かけてよ。

相川 （愛想良く）すいません。ついうっかり。

小須田 受付？

小西 （再び殺気を放ち）そっちの二人は？……………初めてのの人？

相川 ……はい。

小西 （殺気を解き）そうなの。じゃ、あっちでいろいろ書いてもらわないと。

大貫 中西さん？

小西 あ？

大貫 中西さんだよね？

小須田 よく似てるけど、違いますよ。名札。

大貫 ……小西？

小西 (不満そうに) 小西、正紀です。何か？  
大貫 いや、あの。

小西 そうですよ。ドン小西の本名と同じですよ。

相川 そうなの？

小須田 知らないっす。

大貫 すいません、ワニになった同僚に、よく似ていたもので。

小西 ああ、そう。お気の毒だね。(プールを示し) こんなのになっちまうとは。

小西 初めての人は、登録証、書いてもらうから。来て。

大貫 はい。あ、あの、それには何を。

小西 住所、氏名、顔写真つきの身分証のコピー。(相川に) 説明してないの？

相川 すいません。

大貫 (こそこそと) 持ってる？

小須田 (こそこそと) そりゃ持ってますけど。

相川 持っていないの？

大貫 免許持ってないし。今、保険証しか。

小須田 マイナンバー。

大貫 怖いじゃん、なんかあれ。

相川 ペイペイとかポイントもらえるし。

大貫 あああいうのどうなの？

相川 私も色々思うところあるけどさ。

小西 いいから、とにかく、こっち来て！

小須田 うかつに書かない方がいいですって。

大貫 でも。

小須田 ここが一体何のアレなのか。

と、袖から声。

声 あの！ 一匹連れて来たんですけど！

小西 はいーい！ ちょっと待ってて。(大貫と小須田に) いったん書いちゃって。

と、峯田、袖からワニにくくりつけた紐が伸びている状態で登場。

峯田は、スポーティーな私服である。

峯田 ちょっと、速いところ、計測。

小西 あーもう。はいはい。

と、小西は、メジャーを取り出しながら、袖に引っ込む。

大貫 峯田君？  
峯田 あ、ウィッス。  
大貫 峯田君は、峯田君？  
峯田 ? 何がすか？  
大貫 いや、そうなら大丈夫。  
峯田 やっぱ二人もはじめました？  
大貫 いや、僕らは。  
峯田 え？ 今から始める感じですか？

意図がわからず当惑している小須田と大貫。  
計測を終えた小西が出てくる。

小西 890円かな。  
峯田 えー！ 結構大きいでしょ。  
小西 だって、ネクタイつけてるし。連れてくる時。大人しかたでしょ？  
峯田 いや、ですけど。さすがに。  
小西 もともとちゃんとした勤め人だったんじゃない？ タトゥーとか入っていると  
峯田 ね、小さくても千円いくんだけど。  
気が荒いんすもん。そういうやつ。

と言いながら、小西は（ウエストポーチなどから）千円を取り出す。

小西 お釣りある？  
峯田 小銭なくて。  
小西 取ってくる。

と小西、再び退場。

大貫 ここは、ワニの買取所、みたいなところ？  
峯田 避難所って呼ばれてます。一応。  
小須田 避難所……  
相川 ここには、その、バイトが連れて来たワニの全てがいるの？  
峯田 誰すか？  
大貫 友達。  
峯田 へえ、意外。  
相川 全部？ これで。

峯田 ここにいるのは、一時的な感じで、プールがいっぱいになったら、また別のところに行くとか聞きましたけど。

相川 別のところ？

峯田 大人しい奴は、熱川のバナナワニ園で、気の荒い奴は海外で皮剥がれて財布とか革ジャンなるとか。噂ですよ。俺もよく知らないっす。

大貫、小須田、相川、三者三様の目を合わせる。小須田は、ワニになってしまった場合の自分の身を案じて。相川は、TAKAHIROの身を案じ。

峯田 あ、始めるなら、俺の紹介ってことにしてくれませんか。

大貫 結構長いのか？ この仕事。

峯田 まあ、倉庫の勤務日減ったぐらいから。

大貫 あのさ、痛まない？、心が。

峯田 ……痛まないっすね。

大貫 だって彼らはもともと。

¥峯田 そこまで思い遣っている余裕ないですよ。

大貫 でも、例えば、君の親御さんがワニになったら、君は同じ様に。

峯田 もうなってますから。………すいませーん。

と、一瞬、峯田の回想シーンになる。

小西、出てきて。

小西 はい。

峯田 あの、保健所に電話したら、ここに連れて行って言われたんすけど。

小西 ああ、そうね。一旦、計測先にしちゃうわ。(再び袖に引っ込む)

峯田 ? はあ。(施設を見渡し) あの、避難所って聞いて。

小西 ああ、なんかそう呼ばれてるみたいね。

峯田 ……その、世話とかしてくれるんですよね？

小西 そうね。一応。餌やったりは。

峯田 治療とかは？

小西 治療？

峯田 わかんないですけど。その治る様に。

小西 ああ、それは俺の管轄じゃないね。

峯田 ……これ、一応、俺の親父で。

小西 ああ、はは。サロンプラス貼ったまま。

峯田 朝、お袋が悲鳴あげてて。見に行ったら、親父に食われる寸前で。なんでだ



小須田 ろ。生きてても生産性ないとか、思っちゃったんですかね。親父。生産性。

小西 難しい言葉知ってるね。(出てきて) 690円かな。

峯田 え？

小西 いろんな基準でね、値段変わるの。結構年だった？

峯田 親父、どうなるんですか？

小西 さあ。

峯田 いや、さあって。

小西 いろんな噂はあんだけど。どうする？ 別に連れて帰ってもいいけど。

と、小西、ウエストポーチのお金をさぐり始める。

峯田、プールを見渡し。

小西 あ、確か今登録したら、初回キャンペーン中で、5000円、上乗せできるわ。で、新たに誰か紹介してくれたら、プラ5000。

小西、小銭を差し出している。

峯田、受け取る。

大貫 え？

小西 裏門の番号、「5963」ご苦労さん。押してくれば開くから。大きいのが取ってるわ。(再び)

大貫 いや、それはさすがに。

峯田 しょうがなくないたすか？ 働けるのは俺だけだし、優先順位ってありますから。

回想戻る。

小西が再び出てくる。

小西 はい890円。

峯田 え、で結果始めます？

大貫 いや、僕らは。

峯田 じゃ、お疲れ様です。

と、峯田去っていく。

小西 じゃあ、さっさと登録証。

相川 すいません、我々、バイトじゃないんです。

小西 え！？

大貫 アイちゃん。

相川 探しているワニがいるんです。赤いスウォッチの時計と、手の甲に名前のタトゥーが。

小西 わかんないよ！ そんな一匹一匹。

相川 でも毎日ここにいるなら。

小西 シフトでいない日もあんの！ っていうか、あんたら、どうやって入ってきたの！？

相川 暗証番号はザルだったし、扉はボールの様なもの。

大貫 アイちゃん、正直すぎだよ！

小西 ああ、もう、通報だ！ そこ動かないで！

相川 (小西を引き留め) せめて、頻度を！ このワニはどれぐらいの頻度で他に移されているんですか！？ 毎日！？ 毎週！？

小西 だから、わかんないってシフト制だから！ でも日に日にワニも増えてるから、運び出される頻度も上がってるんじゃないかな！ 俺の見る限り！ 俺なんでこんなに丁寧に丁寧に答えてるの！？ 根が優しいから！？ 通報するよ！ あぐ！

バチバチという音。突如、小西は、気を失う。

相川のリュックについていたスタンガンを、大貫は使ったのだ。

大貫 ごめん、借りた。……一応、動けない様に、縛れるもの。

相川 持ってる。

大貫 こっすー。そっち、持てる？

三人で、小西をハケさせつつ、退場。

【15】

再び、渡良瀬川の河川敷。大貫は、依然、双眼鏡を覗きながら、TAKAHIROを探しているが、小須田・相川は鎮痛の面持ち。

大貫 あ！ あれは！？

相川 (一応、双眼鏡を覗く) 違う。

大貫 ああ。あ！ あれ！ タトゥーが。

相川 (再び一応、双眼鏡を覗く) だから、名前。

大貫 (双眼鏡を覗き) 確かに。鯉の滝登りだ。あれは、本職の方だね。  
相川 ……あんなタトゥー止めればよかった。

大貫 アイちゃん。

相川 TAKAHIROは確実に革ジャンになって着られるんです。

大貫 噂だから。それにまだ捕まったと決まったわけじゃ。

小須田 (手を見つめ、悲嘆) 熱川……。

大貫 ……ちよっと！ 休憩しよう！ ね！ ほら、あの土手なんかピクニックに最適だよ。お弁当も、簡単だけど作って来たから。

大貫、レジャーシートを引いて、リュックの中から、おにぎりを取り出す。

大貫 これ、おにぎり、全部ツナマヨだけど。あと、足りなかったらと思って。

と、大貫は、リュックからカップ焼きそばを三種(UFO・一平ちゃん・ごつ盛り)取り出す。

相川 バリエーションが……(小須田に) どうぞ。

小須田 (一平ちゃんを取る)

相川 (UFOをとる)

大貫 (ごつ盛りを取る、少し残念そうな表情)

相川 嫌なら変えるよ。

大貫 大丈夫大丈夫！ おいしいよ、ごつ盛り。おいしいよ……ごつ盛り。

小須田 ……いや、お湯。

大貫 え？ あ。(完全に失念していた表情)

小須田 嘘でしょ。

大貫 ちよっと、コンビニ行ってくる！

相川 いいよ。そんな。

大貫 大丈夫、ちよと行ったところにあったから。(とカップやきそばを二つ持って行こうとする)

小須田 ごつ盛り！

大貫 手二つしかないし！

と、大貫は、退場。

小須田 のん気すぎだろ。

相川と小須田、気まずい間。小須田、おにぎりを示し。

小須田 食べてください。

相川 ツナマヨだめなんで。どうぞ。

小須田 あ、人の触ったもの食べるの無理で。

そつと置かれるおにぎり。

相川 これ（プリングルス）、食べます？

小須田 だって、それは。

相川 大丈夫です。もう一本ありますから。

と、相川はリュックの中のプリングルスを示す。

小須田 じゃあ。

二人は、振りすぎて粉々になったプリングルスを食べる。  
各々、咀嚼しながら、水で流し込む。

小須田 なんか、しっくりきました。

相川 え？

小須田 生産性って。さっきの。ワニになる理由。

相川 ……ああ。

小須田、日当を取り出し。

小須田 これお返しします。

相川 いえ、一度お渡ししたものですから。

小須田 もういいでしょう。十分、危険も犯しました。悪事にも手を染めました。いい加減、その治るっていう方法を。

相川 教えたら、試すでしょ？

小須田 そりゃ。

相川 でしょ。それで治れば、ハイさようなら。

小須田 ……。

相川 あ、間ができた。凶星じゃないですか。

小須田 今日一日は協力します。

相川 今日一日！？

小須田 いや、見つかるまで。

相川 協力してくれるの？

小須田 ……。

相川 また間ができた！ だから友達じゃなきゃだめなんですよ！ むっきーみたいな、打算のダの字も知らないお人好しの権化の様な友達じゃなきゃ！

間

小須田 僕じゃあ、ダメなんですか？

相川 だから、あなたは友達に（なれないでしょう、と言いかけて）

小須田 じゃなくて！ TAKAHIROさんの代わりが！

間

小須田 ……友達でダメなら、恋人にして下さい。そして僕を養って下さい。

相川 そんな、色恋をダシに。せめて家賃の半分ぐらいは。

小須田 じゃあ光熱費を払います！……自分が助かりたいだけで言ってるんじゃないんです。そっくりなんです。相川さんが。

相川 誰に。

小須田 僕の夢の中に出て来た女性にです！

音楽

小須田 ある日、僕は、夢を見ました。僕の皮膚がみるみるワニ皮になっていく中、僕の手をとった女性がいた。それが、まだ見ぬはずのあなただったんです！あなたが手を握ってくれたその先から、僕の皮膚は体温を取り戻し、すべてとした人の皮膚になっていった。

相川 ……そんなの、（見透かした様に）今作ったほら話でしょ。

小須田 いいえ！

相川 間がない！

小須田 僕たちは、ちょうどお似合いの卑屈さを持っていると思うんです。お互いがお互いを適度に見下し合いながら、傷を舐め合う様に、馴れ合って生きていく気がするんです。

小須田と相川、見つめ合い、近づく。

その時、物陰からスーツ姿の男が現れる。男は、包丁を持って、目出し帽を被っているが、手足は完全にワニ化している。

男には、既にドラムのリズムが聞こえているらしく、耳を押さえながら、レジャーシートに置きっぱなしのおにぎりと「ごつ盛り」を盗もうとする。おにぎりを手にした段階で、小須田に見つかる。

小須田 なんだ？ お前。

男 動くな！ ……その、ごつ盛り、こっちによこせ

男はナイフを持ち、緊張感を漂わせているが、特に重要なものでもないため、小須田と相川は目を合わせた後に。

小須田 や、全然いいですけど（と渡そうとする）

男 投げてよこせ！

小須田は思わず、上手投げしようとするが。

男 麺が割れる！ 下手投げ！ ……そうだ、そうだ。そーっと、そーっと投げろ。

小須田、仕方なく下手投げで投げてよこす。

男は片手が塞がっているために、うまくキャッチできない。ナイフで警戒しながら、必死に拾う。

小須田 いや、全然あげますから。

男 そいつもだ。食べさしじゃない方。

と、男が指したのは、相川のリュックに入ったままのプリングルース。

相川 これはダメです！

男 どういう温度差だ！

小須田 渡しませう。ワニ化のせいか興奮してます。

相川 でもこれを渡したら、TAKAHIROが。

男 何をごちゃごちゃ！

と、ナイフを振りかざし、男は襲いかかってくる。

小須田 危ない！

と小須田は相川を庇う。小須田は負傷するが、相川はスタンガンで男

を無力化する。

小須田 最初から、それ使えばよかった。

相川 ごめんなさい。

小須田 とりあえず。

相川 はい。

もはや二人は手慣れた様子で男の手足を縛る。

手早く男を縛っている最中、遠くに救急車やパトカーの走る音が聞こえる。

相川 何が起こってるんでしょう？

小須田 なんか、大きな事件とか事故ですかね。

男が気を取り戻す素振りを見せるので、小須田は、男の目出し帽を取る。それは、北村。

小須田 北村、さん。

北村、気が付く。

小須田 あ、お疲れ、様です。

北村 ん？ あ、お疲れ様です。えっと

小須田 あの、倉庫で、派遣の、小須田。

北村 ああ。 (縛られていることに気がつき) んだこれ。

相川 知り合い？

小須田 仕事場の上司というか。

北村 おい！ こす、え、っと。

小須田 小須田です。

北村 解けよこれ！

相川 (スタンガンをバチバチとやり威嚇)

小須田 (北村に) なんでこんな、強盗みたいな真似。

北村 (自力で解こうと頑張り、クネクネと動きながら) もう法律もクソもねえんだ。当たり前だろ。

相川と小須田、顔を見合わせる。

北村 知らねーのか。いろんな話が飛び交ってる。物流が止まってものがなくなるだの。もうすぐこの町が封鎖されるだの。ワニ化は黒烏龍茶で防げるだの。……コンビニとかスーパーではもう奪い合いだ。うちなんて、真っ先に餌食だよ。(解けず) ああ、くそ。

小須田 ……北村。

北村 急にタメ口聞いてんじゃ。

小須田 もう上司でもないからタメ口だし、呼び捨てだ。相川さん、こいつが生意気なクチ聞いたらイツちゃって下さい。

相川 了解。

小須田 お前は、なんでワニになりかけてる？

北村 (悪態) はあ？ そんなことわかるわけ。

小須田 相川さん。

相川がちよつとスタンガンを当てる。

北村 が！ ……そんなんわかんないっすよお。

小須田 孤独を感じたり、承認欲求が満たされなかったり、生産性が感じられないとか。

北村 んだよ！ 聴き慣れねあ新出単語並べやがって！

相川 (ちよつとスタンガン)

小須田 思い出せ！ ワニ化が始まった時のことを丁寧に！

北村 わかんねーんだって。倉庫が止まるってなってから、俺の皮膚がおかしくなつて、それを嫁に見せたら、嫁も急にヒスリだして、次の日にはベランダの下にワニが死んでた。

小須田 ……奥さんも、なったのか。

北村 ああ。

小須田 奥さんは孤独とか、承認……

北村 / 知らねーよ！(スタンガンくらいながら) あああ多少は孤独だったかもしれないです。いきなり知らないくそ田舎に連れてこられて、友達もいないし！

小須田 承認欲求とか、生産性とか！

北村 専業主婦にんなもん関係ないだろ！

相川 そんなことないでしょ！

相川、北村にスタンガンをお見舞い。

北村 あああああ。はあはあはあ、ちよつと慣れてきたぞ。

小須田 どうなんだ。そういうことは言ってなかったのか？

北村 そんな単純な話じゃねえだろ！ これは！ こんな状況で、わざわざ人間や



り続ける意味を見いだせるかどうかだろうか！

ドラムの音が北村に聞こえてくる。

北村 (ドラムが聞こえてきて) 上等だあ。ファイトしてやるよ。ファイトし続けてやる！ 俺は俺のために人間やり続けてやる！ 水！ 水よこせ！

小須田、先ほどまで飲んでいた自分の水を渡す。

北村、ガブガブを水を飲み干すと、急に落ち着き。

北村 そうか、川、川だ。

と言いながら、縛られたままの北村びよんびよんと退場。  
北村がハケると、その袖中から、ワニの鳴き声がひと鳴き。

小須田 初めて見ました、人がワニになる瞬間。

相川 ああ。

小須田 (傷が痛む) いっつ。

相川 ちょっと、待って。

と、相川はリュックの中から救急セットを出し、小須田の手に包帯を巻き始める。

相川 ……接吻なの。例の方法。私家がを開ける前、TAKAHIROの人間がまだ一割ぐらい残っていた時、行って来ますのチューをしたら、少しだけ、少しだけだけど、顔を覆っていたワニ皮が、うっすらと肌色になった。もっと早く気づいて、濃厚なやつ、かましとけば。

小須田 ……俺、ずっと怖いんです。

小須田の手を相川は握る。

再び、小須田と相川、見つめ合う。

相川 目を閉じてて。……失礼じゃす。

相川、決意を固める。

いざ行かんとした時に、両手に出来上がったカップ焼きそばを持った、身なりがボロボロの大貫が現れる。

大貫 TAKAHIRO 君、いたよ。

二人は、離れる。

大貫 え、ちょっと、なんでそんな？ いや、続けて続けて。僕、ちょっと腰、休めてるからさ。

と言って、大貫は、レジヤシートに座る。

相川 あの、今、なんて。

大貫 いやーびつくりした。コンビニ行ったら、みんな血眼で奪い合って、途中、何度もひったくられそうになったけど（カップ焼きそば掲げ）、死守した。なにしてたの？

相川 どこにいたんですか？

大貫 友達の間、秘密はナシって。

相川 そんなこといいから、TAKAHIROは？

大貫 よくないんだけどな。

相川 TAKAHIROはー！

大貫 ギブアンドテイクの精神で、この後、僕の質問にも答えて欲しい。さっきの三角州のところにいたよ。タトゥーも確認済み。

相川は、大貫の指した方に走っていく。

小須田 相川さん！

大貫 こっすー。君たちまだ知らないかもしれないけど、この街は。

小須田 知ってます。混乱しきってることは。

大貫 ……そう。何、してたの？

小須田 ……。

大貫 秘密は。

小須田 もういいでしょう！ ……俺、今、すっきり人に戻れるかもしれない寸前だったんですよ。秘密はナシ！？ さんざん今まで黙ってて、友達だとしたら、あなたの方がどうかしてる。

大貫 僕は、アイちゃんとの約束を。

小須田 ……部外者だからそんなこと言えるんだ。

大貫 部外者？

小須田 そうでしょ。なんで大貫さんだけワニにならないんですか。

大貫 それは、それは、僕もずっと不思議に思ってるよ！ でも、こっすーと友達になつたから孤独じゃなくなつたし承認欲求も。

小須田 関係ないっす。多分、それ、全部。

大貫 え？

小須田 今さっき、北村さんが目の前でワニになりました。

大貫 ちよちよ、どういう。

小須田 当の本人が、ワニになる直前に言ってたんです。関係ないって。そんな単純な話じゃないって。

大貫 じゃあ、なぜ。

小須田 こんな状況で、わざわざ人間やり続ける意味を見いだせるかどうかだって。

間

小須田 あの、ずっと思ってたんですけど。このワニ騒動が始まってから、なんか楽しそうですよ。大貫さん。

大貫 そんなこと。

小須田 ないって言い切れます？ 秘密はナシです。

大貫 ……。

小須田 間ができた。…もしかして、心のどっかで望んでたんじゃないですか？  
こんな状況。

小須田、相川を追い、去る。

大貫、その場から、動くことができない。

【16】

以降、河川敷の土手に座ったままの大貫と、三角州に向かう相川、小須田の様子は、同居して行うこととなる。

相川、三角州の見える河川敷まで来た。

相川 (双眼鏡を除き) TAKAHIRO。

相川はそう言うと、河川敷からざぶざぶと川の中に入っていく。

そして、それを追う様に小須田が河川敷に現れる。

小須田 (既に遠くにいる相川に呼びかける) 相川さん！ 危険です！ ワニがどんなそつちに寄って行ってます！ 一回戻って！

しかし、小須田の声は届かない。

小須田 くそ。

と言うと、小須田は、怪我をした箇所を巻かれていた包帯を取る。すると、小須田もぎぶぎぶと川の中に入っていく。そして、バシャバシャと水しぶきをあげる。

小須田 ほらワニども血だぞ！ 獲物がここにいるぞ！（ワニ達の注意がじっくりと自分に向いて来るのを見て）……そうだ。こっちに来い。

相川は、三角州に上がる。そこには確かに赤い時計をし、タトゥーの入ったワニが。相川は、TAKAHIROを愛おしそうに撫でる。

相川 TAKAHIRO。

その様子を、小須田は川に半身を浸しながら双眼鏡で見ている。そして、相川は、TAKAHIROにくちづけをする。しかし、TAKAHIROワニは人には戻らない。

小須田 ダメです！ 一度じゃなくて、何度も！

相川、何度も熱いくちづけをTAKAHIROワニに施す。しかし、やはり人には戻らない。

相川は、諦めた様な清々しい笑みをこぼすと、自分の周囲に集まってきたワニ達を見渡す。

小須田 一回離れて、ワニに囲まれます！

相川 こっすー！ ありがとうね。

小須田 え？

相川 傷を舐め合うように、馴れ合って生きる、だっけ。すごく魅力的だと思った。私にはもったいないくらい。

小須田 過去形で話さないで下さい。離れて！

相川 ……今思った。私、ここからの景色、好き。TAKAHIROとの暮らしよりも、あなたと思い描く未来よりも、今、ここからの景色が好き。こんな大勢の人間だったワニ達が、ギラギラとした目で私を見てる。私を必要としている。

相川の周りに集まっていたワニが一斉に相川を覆う。

小須田 そう言うと、相川さんは、ワニ達に、笑いながら埋もれて行きました。

小須田の頭の中に、ドラムのリズムが聞こえてくる。

気がつけば、小須田の間近にもワニが集まっている。

(これらは、緑色の照明などで表現されても良い)

小須田 食えよ。

ドラムのリズムが高鳴り、加えてワニの鳴き声も高鳴る。

ワニの大群の中から、声。

声 こすちゃん？

小須田 (声の方に目を凝らす) ……峯田、君？

小須田、その声に誘われる様に退場。

【17】

レジャーシートをひいていた土手。気がつけば、日は傾いている。

大貫は座ったまま、動けないでいる。

すると、小西が、デッキブラシを持ったまま登場。そのまま通り過ぎ

そうになるが、大貫の顔に見覚えがあるために、立ち止まる。

小西 あれ？

大貫 (思わず、顔を反らす)

小西 そうだよね。え、そうだよね。

大貫 その節は、大変失礼いたしました！

小西 ……え？ あの、全然覚えてないんだけど。

大貫 はい。

小西 俺、通報しようとした？

大貫 はい。してましたが、こちらがスタンガンで。

小西 スタンガン！？

大貫 申し訳ありません！

小西 なるほど。どうりで、記憶ないわけだ。びっくりしたよお。

大貫 (何か渡せるものを探し) あの、こんなものしかないんですけど、お詫びに。

小西 (出来上がった二つを指し) そっちは？  
大貫 ああ、あの、冷めちゃってて。手はつけてないんですけど。  
小西 じゃあ、そっちらうよ。

と言って、小西は、座ってカップ焼きそばを食べはじめる。

小西 あんたも、食べたなら？  
大貫 ああ、はい。

大貫、一応、カップ焼きそばを持つ。

大貫 あの、通報は？  
小西 ん？ しないしない。首になったから。  
大貫 え！？  
小西 上のやつが、足で起こしてきて、「お前、もういいよ」って。  
大貫 本当に、なんとお詫びしたら良いか。  
小西 あ、それ関係なくて、もう閉めるっぽい、あそこ。  
大貫 ……避難所を？  
小西 らしいよ。わかんないけど。  
大貫 はあ。  
小西 どーなっちゃうんだらうね。一体。  
大貫 ……はい。

二人、呆けながら景色を見る間。

小西 あんたは、ワニ、なんなの？  
大貫 前はそういう兆しもあったんですけど、最近はめっきり。小西さんは？  
小西 なんないねえ。むしろみんななんぞなるの？  
大貫 ……諸説、あって。  
小西 諸説。難しい言葉。  
大貫 ……あの、腰を下ろした縁で、ひとつ相談しても良いですか？  
小西 初めて聞いた縁だけど。何？  
大貫 あくまで例えとして聞いてほしいんですが、あるところに、ひとりの寂しい、孤独な男がいたとします。男は変わりばえない日々を送っていましたが、ある日を境に、町の人々がどんどんとワニになっていき、そのおかげで、男に助けを求める人間が二人、現れました。男は彼らを助けることで友達となり、孤独ではなくなりました。しかし、その二人は、ある時、男の助

けを必要としなくなりました。男と友達でいる必要がなくなりました。そして二人は目の前から去って行きました。それでも男は、二人と友達でありたいと思っていて、そんな時、男は一体どうすれば良いのでしょうか？ 元の孤独な男に戻るしかないのでしょうか。

小西 ……ごめん、途中から何言ってるかよくわかんなかった。もう一回いい？

大貫 ですから、例えば、あるところに

小西 だめだ！ 入りが、だめだ！ ……俺が受けられる相談は、例えば、今季の野球

のスタメンとか、あと、ほら、ほら……ほらな。

大貫 すいません、野球やってなくて。

小西 あー麻雀は？

大貫 (いやいや)

小西 競馬、パチンコ！

大貫 (いやいや)

小西 温泉、野球。けん玉、

大貫 野球出た。けん玉？

小西 漫画！

大貫 漫画！ ブツダとか。

小西 読んでない！ ドカベン！

大貫 読んでない！ カイジ！

小西 読んでない！ ストッパー毒島！

大貫 読んでない。

小西 男どアホウ甲子園！

大貫 読んでない！

小西 地獄甲子園！！

大貫 読んでない！

二人、落胆。

小西 野球漫画しか読まねーのよ。

大貫 野球漫画読まないんすよ。

カラスの鳴き声。――

小西 へへ。なんか、変な時間だな。

大貫 はい。変な時間です。

小西 帰ってもやることねーし、腰上げる気にも。なあ？

大貫 僕は、本当は、座っている場合でもないんですけど。でも、何を目的に、何を

小西 しに立ち上がればいいのか分からなくて、ずっと座っている感じです。  
なんか、忙しい座りだな。  
大貫 はい忙しい座りです。  
小西 初めて見たよ。忙しい座り。  
大貫 二個出ましたね。初。  
小西 な。得した。

軽く笑い合う

小西 盆と正月が一緒に来たみたいだよ。  
大貫 /そこまではないんじゃないですか。  
小西 /そこまではなかったわ。

間

小西、カップ焼きそばを食べ終わる。

小西 これで十分だろ。  
大貫 え？  
小西 みんなぐちゃぐちゃ考え過ぎなんだよ。飯食って、たまに笑って、今の変な時間、人生のやりたいのうまみは詰まっていたら。  
大貫 ……そんなこと  
小西 /そんなことないな。  
大貫 あるかもしれません。  
小西 おお。  
大貫 多分小西さんは、生きていくのに夢も希望も目標もないから、日々の及第点をとでも低く設定できるんだと思います。だから、小さなことで満足できるんです。  
小西 だいぶ聞き捨てならないな。  
大貫 でも、そうですね。それで、十分なはずですよ。

大貫、立つ。

小西 おお、立った！  
大貫 (かしこまり) すいません！  
小西 そして急にどうした？  
大貫 全体的な、すいませんです。僕は、あなたにずっとずっと救われ続けているはずなのに……だのにそのことを、今の今まで気付けずに、そして恩返



小西 しの一つもできないままでした。  
さつき知り合ったばっかだよな？

大貫 しかし！ 僕は、ワニではなく人間であるからして、目は横ではなく前にしかついていません。だから前だけを見て、あなたに返すことのできなかった恩を、他の誰かを救うことで返さんと、行ってこようと思います！

小西 なにひとつわかんなかったけど、とにかく行くんだな！

大貫 はい！ では！

小西 これいる！？

と言って、突如、小西はデッキブラシを差し出す。

大貫 え、あ、それ、あの施設の備品とか。

小西 私物私物！ 上はなんも用意してくれないから、仕方なくホームセンターで買ったんだよ。もういらねえから、いる！？

大貫 (小西の説明中、今から起こる様々な展開を想定し) います！

と、大貫、小西からデッキブラシを受け取り。

大貫 では！

大貫、退場。

【18】

このシーンは、ワニ化に誘われた小須田の視点で描かれる。  
そのため、ここは非常に抽象的な空間である。

小須田 峯田君？

峯田、現れる。(峯田は、緑色のスウェットなどを着ている。ワニを連想させるが、それはあくまで記号な意味合いに過ぎない)  
峯田、現れると軽く手を上げる。

小須田 (峯田の格好を見て) ワニ、なっちゃったんだ。

峯田 うん。なっちゃった。

小須田 家族は。

峯田 あのあと一回帰ったらさ、お袋もなあって。

小須田 ……そう。

峯田 あ、北村、いるよ？（袖に）北村ー。小須田君。

と、峯田と同じ様な緑色の格好で、手足を縛られたままの北村がぴよんぴよんとやってくる。

北村 おお、よう。

小須田 あ。すいません、（縛ってあるもの）それ。

北村 ん？ ああ。

小須田 あの、とりましようか？

北村 ああ…（と峯田を見る）

峯田 一応、とつてもらったら。

北村 じゃあ、お言葉に甘えようかな。

小須田、北村の束縛を解く。

北村 ……。

峯田 ありがとうぐらい言いなよ。

北村 ああ、ありがとう。

小須田 いやいや。…どう？ どんな感じ？ ワニって。

峯田 どんな感じ？（北村に）どんな感じ？

北村 どんな感じだろ。

峯田と北村が考える長い間。次第に本当に考えているのかわからないぐらい二人はぼーっとする。

小須田 あ、特になら。

峯田 （はっとし）ああ、ごめんごめん。

小須田 ううん。なんか、タメ口だし、ちょっと気になって。

北村 あ、タメ口ね。

峯田 まあ、同じワニだから。

北村 どーでもいいかな。

小須田 倉庫でも仲良かったもんね。

峯田 ……仲良きは、なかったよね？

北村 うん。

峯田 北村のこと、心の底から軽蔑してた。あ、社員登用の話とか。

北村 /あ、あれ嘘だったわ。

峯田 だよね。（小須田に）あでも、今は、あれだよ？ 仲良い。

北村 まあ、仲良いつつうとアレだけど。仲間、っていう感じかな。  
小須田 仲間。

峯田 あ、それは、あるかも。

北村 こう、なんていうか、俺と、峯田の境い目もそんな、ね？  
峯田 結構わかる。お互いのこと。

北村 うん、だから……、ない。寂しいとか。

峯田 わかる。

北村 なんだったんだろうね、あれ。

峯田 人間の時のね。やだったー。

北村 頑張ろう、とかね。

峯田 あったー。何かのために、とかね。

北村 あったー。誰かのために、とかね。

峯田 あったー。

北村 そういのが、ゼーんぶ、ない。

峯田 あ、ちよっと、来てみ。

三人、小須田をセンターに横一列に並ぶ。

峯田・北村、とてもリラックスした立ち方。

峯田 ほら、こうやって、水の中で、じーっとしてるとき。こうスーっと、どう？  
なんか落ちて来ない？

小須田、峯田を真似て見る。

峯田 生きてることに、なんの意味もないって。

小須田 ……うん。

北村 なんか、全部どうでもよくなるっしょ。

小須田 うん。……食欲とかは？

峯田 ん？

北村 ああ、まあ、多少は？

小須田 人食べるって。

北村 あれ、デマ。俺もすっかりそう思い込んでたけど。

峯田 食べないよ。今ワニだけど、一応、元人間だよ。

小須田 でも、峯田君のお父さん、お母さんに。

峯田 だから、ちよっと人の時のアレが残ってたんだよね。

小須田 ？

峯田 多分、食べようとしたんじゃないかって、チューしようとしたんだよ。親父。う

ん、うんうん、わかるわ。

会話が一区切りつき、北村・峯田それぞれぼーっとする。

小須田 ……なんか、すごい楽そう。

峯田 あ！ それ。

小須田 え？

北村 その言葉一番しっくり来るかも。

峯田 こすちゃん、頑張ってるもんね。

小須田 そうかな。

峯田 そうだよ。なんか、いつも頑張ってる様に見えたよ？

小須田 ……そっか。そうだよね。

峯田 いいんじゃない？ もう頑張らなくて。

北村 疲れたでしょ。

小須田 ……うん。疲れた。

北村 楽になる。あっちにみんないるから。

小須田、まるで峯田と北村に付き添われるかの様に退場。  
遠くから大貫の声

大貫 こっすー！

【19】

三角州の前の河川敷。

大貫、デッキブラシを持って登場。

大貫、ワニの群れの中に小須田が取り囲まれているのが見える。

大貫 こっすー！

大貫、川の方へ降りていく。そして、デッキブラシを振り回しながら、  
ワニを追い払う。

大貫 ああ、どけ！ どけ！ （時には反撃にあい）ひい！ くそ！ ああ！

と、ワニの群れの中から、力づくで小須田を救出する大貫。  
そして、現れた小須田はもうだいぶワニ化が進んでいる。

(ワニ口が描かれたマスクなどをしている?)

大貫 もう、だいぶワニ化が。

小須田 なんで今更。

大貫 アイちゃんは?…アイちゃんは!?

小須田 (三角州の方を指差す)

大貫、首に下げた双眼鏡を覗き、三角州の方を確認。

大貫 ワニの塊しか。――

小須田 接吻しても、ワニは人に戻りませんでした。

大貫、小須田の言葉から、相川が取り返しのつかない事態になったことは察する。

小須田 水、下さい。

と、言われて、大貫、思わず水を出すが、中西の時のことが思い出されて、手が止まる。

大貫、とたんに距離をとる。

大貫 だめだ。ダメだよ。こっすー∞!

小須田 よこせえ! 水!

と、小須田は、無理やり大貫の水を奪おうとする。  
大貫は、抵抗しながら、逃げる。

大貫 諦めちゃダメだ! まだ、何か、人でい続けられる方法が!

小須田 そんなのもう意味ないんです!

再び水の取り合い。

大貫、小須田をうっちゃると、その隙に、ペットボトルの水を飲み干す。

小須田 あ!

大貫 ぶはあ!

小須田 ……なんで、そんなに頑張れるんですか。

大貫 なぜだろうね。君のことを思うとなぜだか力が湧いてくるんだ。

小須田 もう、僕を頑張らせるな！

大貫 頑張らなくていい！ 頑張らなくていいんだ。僕は、わかったよ。日々の及第点を、うんとうんと下げればいい。人と話せば楽しいし、一日一回笑えたら御の字。それぐらいで、十分なはずんだ。……そもそも生きるのに、大した意味なんて、必要、ないんだ。

間

小須田 無理ですよ。

大貫 こっすー。

小須田 こんな状況ですよ。人でいるのに。強い意味を見出せなくて、どうして人と生きていけるんですか。

ワニが、小須田を誘う様に鳴く。

小須田はそれに誘われるように、ワニ達に近づいていく。

大貫、小須田の後ろから無理やりハグをする。

大貫 じゃあ、意味を、付け直そう。

小須田 はい？

大貫 見出せないなら、付け直そう。身勝手に、新しく。都合のいい様に。どう？  
今、僕に抱きしめられて。

小須田 どうって。

大貫 どう！？

小須田 汗臭くて、気持ち悪いです。

大貫 (かぶせ) 俺は、心地いいと思ってる！ ……君の中に残っている人の部分、その温もりを感じる。これは、単なる熱移動の原理だ。温かいものに触れたら、温かくなる。でも、それを心地いいと感じているのは、皮膚じゃない。脳だ。体から伝わった、意味を持たない電気信号を、脳が心地いいと意味づけした。君もそうだろう？ 気持ち悪いと意味づけをした。……人間には、そんなことができるから、今の今まで生きてこれたと思うんだよ。

小須田、ワニたちを見る。

大貫 だったら！ これから、世界の何もかもを、今まで以上に常軌を逸して誤解して、勝手に意味を付け直しても、いいじゃないか。

このセリフの最中に、街中に走る緊急車両の音が大きく、また人々の

悲鳴も激しい。ガラスの割れる音や交通事故の音もする。  
小須田、百々路木町の風景を見ている。

小須田 ぬつきー。

大貫 何？

小須田 接吻、しましよう。

大貫 え！？ なんで。

小須田 意味がないからです。僕とぬつきーの接吻に。この全く意味のない行為に、僕が意味をつけられるか。これが僕の最後の頑張りです。

大貫 な、な、なるほどお。

小須田 ちなみにそれは10秒後に行われます！ 10！

大貫 10秒！？ なぜ！？

小須田 意味なんて

大貫 ないか！

小須田 9！

大貫 ちよちよちよ、心の準備が。

小須田 8！ ぬつきーさんも、お願いしますよ。

大貫 え？ 俺も？

小須田 7！ 意味を付け直して下さい。

大貫 ええ、ちよつと待っていきなり色々。

小須田 6！

大貫 ああ、もう、わかったよ！ でも、でも！

小須田 5！ なんです！？

大貫 万がいちだけども、そしたら、友達以上の意味が付けられてしまうかも。

小須田 4！ もしかしたら……恋人以上かもしれないせよ！ 3！

大貫 友達以上、親友とかで十分。

小須田 友達より恋人が上だと誰が決めた！ 2！

大貫 確かに！ どうするの！？ こういう時、どうするの！？

小須田 作法なんて知りませんよ。1！

大貫 じよじよ、助走とかつける！？

小須田 助走！？ ああ、もう、つけましよう！

二人、距離をとり。

小須田 ゼロ！

二人は、がっぷり四つで組み合うように、熱いキスをする。

音楽。そして眩い光。  
照明、戻ると、小須田のワニ化が治っている。

大貫 こっすー。(顔を指す)  
小須田 え。

小須田は、顔を触る。そして手袋を外し、自分がワニ化から戻っていることに気づき、笑う。

大貫 君、どんな意味を付けたのさ。  
小須田 ぬっさーこそ。

ワニの鳴き声が、ひたすら大きく、恐竜の様に響く。

大貫 僕たちは、渡良瀬川に蠢くワニ達の、裏切り者を糾弾する様な鳴き声を、祝福の声と誤解して、歩いて行きました。

二人は歩き出す。

大貫 日は落ち、百々路木町は、火事の炎ばかりで電気の明るさもなく、星明かりばかりが瞬いて、僕は、いや、僕たちは、僕たちが、この世に初めて生まれた人間だということにして、雨風のしのげるところに暖をとり、眠りにつきました。

眠る小須田を見て。

大貫 そうだ。明日の朝、目が覚めて、この嘘の様な現実が、やっぱりまごうことなき現実だと思いついたら、僕とこっすーの関係に新しい名前をつけよう。今までのどんな関係、呼び方とも違う、新しい、名前をつけよう。新しい、名前をつけよう。

のぼりゆく朝日と、大貫の希望に満ちた表情。  
暗転。

【幕】